



# やしろ

矢代小学校だより  
平成24年度 第8号  
1月15日

## 高い志をもって挑戦しよう

明けましておめでとうございます。

昨年は、皆さんとともに、心に残る閉校記念式典を行うことができました。改めて、心より感謝申し上げます。

さて、いよいよ最後の年度も残り少ない日々となりました。最後のまとめの時期を迎え、始業式で子どもたちに次のような話をしました。

\*\*\*\*\*

お正月に箱根駅伝を見ましたか。1月の2日と3日で東京から箱根を往復する駅伝大会です。私が特に心に残ったのは、ゴール間近で繰り広げられた4位争いの場面です。ゴール目の100mから早稲田大と帝京大の全力疾走の競争が始まりました。結局、帝京大が競り勝って4位になり、早稲田大は、5位になりました。テレビでこの場面を見た人は、何を感じましたか。

「どっちの選手も全力を出してすごい」「最後まであきらめない」など、両方の選手の頑張りに感動したことでしょう。では、この場面を、それぞれのチームの監督は、どのように見ていたのでしょうか。

大会終了後、競り負けて5位になった早稲田大の渡辺監督が、涙を流して次のように話していました。「3位や4位になって、喜んでいては優勝できない。」この発言を聞いた人の中には、「4位にもなれなかったのに、何をいっているのか。」「4位になったチームに失礼だ。」という人もいました。



渡辺監督は、なぜこんなことを言ったのでしょうか。実は今年の大会で優勝した日体大は、昨年19位だったのです。そして、渡辺監督の早稲田大は、一昨年は優勝、昨年は4位と順位を落とし続けてきたのです。だからゴール前で競り合いした選手を、単純にほめることができなかったのでしょうか。

私は、この渡辺監督の言葉から、高い志をもって挑戦することの大切さを感じました。1位になりたいという思いがあるからこそ、1位になるための厳しい練習に挑戦し、耐えることができます。「3位でもいいや」「1位でなくてもいい」という思いが、少しでもあれば、中途半端な練習で満足してしまいます。

渡辺監督は、続いて「優勝した日体大から、1年でチームは変われることを学んだ。」とも言っています。「高い志が、自分の力を高める」ということでしょうか。みなさんも、最後となる3学期は、ぜひ高い目標（志）をもって、その達成に全力で挑戦し、自分の力をもっともっと伸ばしてください。

\*\*\*\*\*

このような私の話を、子どもたちはどんな思いで聞いたのでしょうか。第6期の目標は、「寒さに負けずがんばろう」です。厳しい矢代の寒さの中で心と体を鍛え、力を蓄え、春に美しく大きな花を咲かせることを願っています。一人一人が、どんな目標を立てて、最後の矢代小の冬を過ごすのか、楽しみでもあります。

(校長 古見 豊)

